

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会 [公開議題]

議事概要

- 日 時 令和6年5月16日(木) 10:00～10:14
- 場 所 中央合同庁舎第8号館6階623会議室
- 出席者 上山議員、伊藤議員、梶原議員、篠原議員(Web)、菅議員、波多野議員、光石議員
(事務局)
塩崎事務局長補、徳増審議官、川上審議官、武田参事官、中川参事官、大塚内閣府審議官、松本外務大臣科学技術顧問、小安文部科学大臣科学技術顧問、大野経済産業大臣科学技術顧問
(文部科学省)
坂本サイバーセキュリティ・政策立案総括審議官
(説明者)
山地PD、千葉PD、吉田室長(NEDO)、綱澤総括(BRAIN)
- 議題 ・ムーンショット型研究開発制度の目標4及び5に対する進捗状況等の評価について

○ 議事概要

午前10時00分 開会

○上山議員 皆様、おはようございます。時間になりましたので、総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会を開催いたします。

本日の議題はムーンショット型研究開発制度の目標4及び5に対する進捗状況等の評価についてです。

ムーンショット型研究開発制度の目標4及び目標5は令和6年度の研究開発から5年目を迎えます。運用評価指針において、5年目にCSTIがプログラムの継続、或いは終了を決定することとなっております。今年2月に5年目評価の実施要項を決定し、4月18日の木曜会合において、実施要項で定めた評価の視点に沿って目標4及び目標5の各PDから御説明を頂き議論を進めてまいりました。

本日は、4月18日の有識者議員からの指摘事項を受けて、内閣府から目標4、5の5年目

評価の評価結果案を御報告いたしたいと思しますので、御議論いただければと思います。

それでは、内閣府の未来革新グループの中川参事官から御説明をお願いします。

○中川参事官 未来革新グループの中川です。よろしくお願い致します。

今、上山議員から御紹介いただきました通り、ムーンショット制度の中で、この目標4と5が一番最初に研究開発がスタートして、この5年目評価も今回初めて行うということで、今、上山議員から御紹介していただいた経緯も参考資料の1の方にまとめておりますが、昨年秋から評価の為の準備ということで、PD報告会等続け、議論を継続していただきまして、今回、評価結果をまとめるところまでに至りました。ありがとうございます。

早速ですけれども、参考資料1、参考資料2のそれぞれの評価結果案について御説明しようと思います。両方続けて、私の方から説明して、まとめて御議論していただきたいと考えております。

資料1を御覧ください。

目標4について、こちら山地PDから先日御説明していただきましたNEDOがファンディングエージェンシーとして参画しているDAC等の技術の目標になります。

こちらは真ん中のところにありますが、結論としては継続ということで考えております。これは目標5の方も同様になっております。

続きまして、評価について、先ほど御説明いただいた通り実施要領に基づき進捗状況と見通し、この二つの観点で評価することとしておりますので、それに沿った形で記載しております。

進捗状況ですけれども、前回のヒアリング等でも確認しました通り、ラボからベンチ、プラントへ順調にフェーズアップしている。また、スタートアップやスピンアウト、こういった成果について社会実装も先行して行われているということを確認したという記載にしております。

見通しの方ですが、これも説明の際にかなりこの分野は国際状況を注目して戦略を立てていただいていたと思いますが、こういったところから国際連携の加速やプロジェクト間の有機的な連携、更に社会実装に向けた企業の追加など、こういった方針について確認したと思っております。

また、ステージゲートで絞り込みつつ、特に2050年に向けて企業主体に移行していくところを後半の取組として説明していただきました。そういった取組方針を確認したという記載にしております。

続きまして、付帯事項の方でございます。

これは今後、後半の5年間続けるに当たっての付帯事項ということでまとめております。こ

これは決して今回の中間評価で終わりではなくて、引き続き2030年に向けた取組事項について記載させていただいておりますように、ムーンショット制度のアドバイザリーボードである戦略推進会議の方で進捗はフォローしたいと考えております。

具体的な付帯事項ですが、これも先日のヒアリングの際に御議論いただいたところですが、やはり2030年に向けた今後の国際情勢、技術動向も変化していくであろうと、こういったところに対して、挑戦的な研究開発も含めて機動的に見直していくということが不可欠である。

また、二つ目、若手研究者、人材育成についての指摘も目標4、5どちらも色々御意見を頂いたと思っております。

こういった取組、ムーンショット全体としても後半5年について考えていかなければいけない課題だと思っておりますので、これは4、5に限らずムーンショット全体で後半5年に向けての制度の見直しも含めて取り組みたいと考えております。

三つ目、達成度、各戦略、具体的にはSIPの話であるとか、農林水産省、経済産業省の戦略についても質問もありましたし、回答もさせていただきましたが、こういった連携については引き続き継続するものと思っておりますので、連携や役割を明確化するべしと考えております。

四つ目、こちらについては標準や知財についても説明や議論をしていただいたと思っております。上の三つについては4、5共通の書き方にさせていただいておりますが、こちらについては少し目標4と5で違っていたかと思っております。

目標4については、特に議論になったのは海洋プラスチックゴミの規制のところについて色々御指摘いただいたと思います。こうした点も踏まえて、国際的な標準化、規制について日本の立ち位置の明確化、米国、欧州などとの連携ということで、全体を捉えたような形で記載させていただいております。これらの付帯事項を踏まえて継続していただきたいと考えております。

続いて、資料2、今度は目標5についてです。農業、食料生産についての説明に移りたいと思います。

具体的な評価のところ、こちらの進捗状況については、独創性、先進性、研究開発の優れた部分があることを確認できました。また、ベンチマーク調査等で研究開発の優れたところを伸ばすというところで事業化構想、産学連携、国際連携などを推進しているというところを確認できたと思っております。

達成の見通しについてですが、やはり前回のプレゼンテーションでも自立というのが非常に

大きなキーワードだったとっております。それらに向けて早期の起業、外部資金調達、標準化等々、スピニアウトも視野に入れて、研究開発を加速する、更にプレゼンの中でも色々な分析について具体的な紹介もあったかと思いますが、そういったものを踏まえて、ポートフォリオの見直し、マネジメント、事業化に向けた支援をやっていくということが確認できたと思っております。

続いて、付帯事項についてです。

上の三つは共通なので、四つ目の方からですが、先ほど評価の中で触れた通り、それぞれのプロジェクトの戦略を非常に明確にさせていただいたかと思っております。その議論の中で出てきた知財・標準化をどういうふうに伸ばしていくかというオープンクローズ戦略についての指摘があったかと思っております。それを策定してしっかり社会実装を進めていくことと思っております。

目標5は、食料等ということからやはり社会受容性、国民に受け入れられるかというところの御指摘、更にはそういった消費者だけではなく生産者の立場、そちらも視野に入れて、対話の促進ということで書かせていただいております。

付帯事項について以上になります。

是非、評価の視点のみならず今後後半5年、目標4、5それぞれどのように進めていくか、或いは人材育成のようにムーンショット制度全体として是非進めていくべきというような色々な御意見を賜れば我々としては参考にしていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

○上山議員 ありがとうございます。

この場が最終的な継続、終了ということを決定的な場ということで、以前の様々な御指摘を踏まえまして、この場で最終決定ということにさせていただきたいと思っております。

○光石議員 御説明、ありがとうございます。

付帯事項の箇所が重要であると思っております。例えば、他制度や各戦略との連携や役割の明確化ということが書いてあり、これは重要であると思っておりますが、プログラム実施者だけにこれを求めるのではなく、プログラムを作り込む側、後から参加するところなどもある程度貢献する必要があるのではないか。うまい出会いの場を作ることなどを検討していただければと思っております。

以上です。

○上山議員 ほかに、事務局の方で付帯事項、以前の議論をまとめましてこのような形で列挙しておりますけれども、それぞれの先生方の御指摘がちゃんと反映されていないなどあれば

如何でしょうか。以前、結構色々な議論が出ましたけれども、反映されているかどうか改めて確認をするという場だと思いますが、せっかくPDの方が来ておられますので、いい機会だと思います。

○波多野議員 目標4に関しては、かなり予算規模も大型で、その理由はパイロットラインを作るということだったと認識しています。また、半分ぐらい企業の人を、企業からの産業界からのファンディングも確保するというところをしっかりとやっていただくことを付帯事項として追記していただければと思いました。

以上です。

○梶原議員 先ほど中川参事官から人材育成の話がありましたが、このムーンショットプログラムを使っていかに若い人たちが活躍できるようになってきているのかというところが伸びていくと良いと思っております。ですが、評価の観点では人材育成が必ずしも加味されておらず、また、折々の戦略会議で進捗の確認をすると、「やっています」となるものの、実際には、人材育成ができていないプロジェクトもあれば、必ずしもそういう意識では動いていないことがあるやに聞こえてきます。やはり横断的に、4と5ということに限らず今後に向けた話として人材育成について、少し注力していただきたい。

同様に、国際連携についてです。ムーンショットを最初に立ち上げた時に、大きなシンポジウムを開催し、国際連携をしていく、日本としてムーンショットという新しい制度を作ったと、割と注目を浴びたような印象がありました。5年経ち、更に5年続く中で、このムーンショットによって国際的な頭脳循環が進むとか、日本の立ち位置が新たに認識されるなど、標準化含めグローバルな観点で推進されている視点がもっと入っていくといいと思っております。よろしくお願い致します。

○上山議員 よろしいですか。ほかの先生方も如何ですか。

ここではもう最終的な決定をする場ですので、改めて大きな議論はないかもしれませんが、こういう場を設けてきちんと一つ一つピン止めしていかないとと思っています。

あと5年続くので、5年という結構長いタームで次々と新しいフォーメーションを作っていかなければなかなかできないんじゃないかなという気がします。色々チャレンジングなことをされているということもよく分かっておりますので、そのことを改めてこういう場で持ってきていただいて御説明していただく、こういう新しいチャレンジをして、それは今までの方針の中で出てきたチャレンジであって、それについては御理解してほしい、そういうような議論ができればいいかなと思っております。

それでは、今回の決定、継続という形で決めさせていただいてよろしいですか。

ありがとうございました。

では、公開の場で、ムーンショット4と5について継続で決定させていただきます。どうもありがとうございました。

○武田参事官 ありがとうございました。

公開議題は以上となります。

午前10時14分 閉会